



第31回 子ども郷土研究  
最優秀作品

道標から  
見えてくること

のの  
下高津小学校6年 関 萌野さん

「子ども郷土研究」は、小・中学生が調査・研究を通して郷土の歴史や文化について関心を持ち、我が郷土“つちうら”を見つめ、理解を深めることを目的に実施しています。

今回は66点の応募作品から、関 萌野さん(下高

津小学校6年)の作品『道標から見えてくること』が最優秀賞に選ばれました。今号では、その作品(地図および写真など省略)を紹介します。



穴塚の馬場先で道標を発見した関さん

1 研究の動機

私は4年生のときに鎌倉街道の研究をして、5年生では信仰の道の研究をしました。その研究で道標をたくさん見つけました。こういった道標をたどれば、土浦の昔のことがわかるような気がしたので、研究することにしました。

2 研究の方法

- ①書籍で道標を探す。
- ②ホームページを参考にする。
- ③新聞にのせて情報をもらう。

まず、私が見つけたもののほかに土浦にある道標を全部集めることにしました。上高津貝塚に行っただけでみると、「土浦の石仏」という本に道標ものっていることが分かりました。1000個以上もある石の造り物の中に道標は約50個ありました。馬頭観音や地藏様でも、方向と地名や施設の名前が書いてあれば道標とすることにしました。また、土浦の道標を紹介している人のホームページも一部参考にさせていただきました。「土浦の石仏」やこのホームページにのっている道標よりも、たくさん道標を探そうと目標を決めました。それで常陽リビングに「道標を探しています」と記事のせてもらいました。しかし、残念ながら反応はありませんでした。

3 研究の内容

□道標から見えてくること  
今回の研究で、実際に発見できた道標は67個でした。そして道標から分かったことをいくつかの

項目に分けてご説明します。

まず、どこに道標があるのか、地図に印をつけました。旧新治村は今回は省略させていただきます。また、地図は北部と南部に分けました。それでは分かったことを紹介します。

□道標はつながっていた

昔の道を見るために、昭和7年の古地図で道標がたっている場所に点を打ってみました。すると現在の地図では分かりづらかった道標のつながりが見えてきました。しかし、今はこの道標と道標が道でつながっているように見えません。たとえば一例を出してみます。

昔の地図を見ると、小岩田東一丁目7-26にある道標と日大裏にある道標が道でつながっているのが分かります。しかし、今の地図を見ると、道の数が増えたので、どうつながっているのか分かりません。

また、小岩田西花室川側にある道標と永国町189大聖寺入り口にある道標がつながっている道は、昔の地図だと常磐線を渡っています。昔はこの場所が常磐線を渡っている人がいたそうです。しかし、今は常磐線を渡る道などありません。常磐線の方に向かって道は、途中でとぎれていきます。

小岩田と日大裏の道標がつながっていた古道をたどってみました。一部は団地になっていたり、畑道になっていたり、普段は全く分からないところもありました。ただ、「自然の道はくねくねしている」ということから、なんとか新しい道との区別はつきましました。道標から古道があることは分かりませんが、実際に探し出すのは大変です。

□昭和の初めまでみんな歩いてた

見つけた道標の年代を見ると、昭和の初め頃にたてられたものがたくさんありました。

道標は歩いていて人にしか見えません。それに道標がたっている古い道はこもせまいです。軽トラが1台やっと通れるような幅しかありません。

ですから昭和の初めまでみんな歩いて移動していたのではないかと思いました。そこで、その頃は土浦に自動車はどれくらいあったのか調べてみることにしました。

しかし、土浦の自動車の保有台数の資料は見つかりませんでした。そこで、全国の数字から想像してみることにします。

昭和4年の全国の自動車保有台数を調べると、約8万台でした。昭和5年の全国の人口は約6千445万人だったそうです。土浦に合併していた町村の人口がわからないので、茨城県の人口で比べてみることにしました。昭和5年の茨城県の人口は、148万7000人でした。

大正8年までの東京の自動車保有台数は全国の保有台数の約45%をしめていました。ですから単純に計算してみると、当時の茨城県の保有台数は990台になりました。

これはどれくらいの数でしょう。茨城県でこれと同じくらいの数あるものを調べてみました。すると、県内の私立・公立の小・中学校と高校を合わせると958校あったのです。つまり当時土浦にあった車の数は今私のまわりにある学校の数と同じくらいと言えます。これは非常に少ない感じがします。

ちなみに、平成14年の茨城県の保有台数は180万台です。

町から町まで歩くことは私のうちでもまったくありません。いずれ石油がなくなったら、またみんなが歩くようになるかもしれません。

□道標は南の方に多い

大体の地域別に道標の個数を書いてみました。すると、南の方に圧倒的に多く、旧市街には1つしかありませんでした。なぜでしょうか。はっきりしたことはわかりませんが、私の想像では、旧市街は水戸街道もあって、にぎやかな町だったので、必要なかったのかもしれない。

では南の方はなぜ多かったのでしょうか。範囲が広いこともありますが、信仰に関係するものが多いです。南の方で見つけた21個の道標の中で、信仰に関係しているものは、13個もありました。特に日の先神社に関係するものが多いです。原の前で見つけた道標は、元は灯籠の台だったそうです。道の両側にあって、最初はただの石だと思っていました。よく見ると日の先大神道と書いてありました。隣のおじさんに聞いてみると、昔はこの道が水戸街道から日の先神社に抜ける特別の道だったんだということを話してくれました。また、灯籠の上の部分は公民館で保管してあるそうです。

ほかにも、日の先神社の標石はサンタスワルドの裏の水戸街道と、右木の成田街道の所にたててありました。この2つの標石は、どちらも大願主が同じでした。日の先神社の標石は全部で5つありました。日の先神社はとても人気があったということがわかりました。

□青年会の力が大きかった(道標ブーム)

青年会がたてた道標は、全部で35個でした。今回見つけた道標の半分以上です。その中でもがんばっていたのが常名や菅谷などでした。青年会がたてたものが4つもありました。こういった町では町単位で時期も、作り方も同じでした。たとえば菅谷はすべてのものがコンクリートの柱に字を彫ったものでした。

さらに常名も、4つとも自然の石に字を彫って

ありました。常名の道標はしばらくお寺に保管されていて、最近になって元の場所にたて直されたそうです。そのときに、字に赤いペンキを塗ったそうです。今も青年会ががんばっているということがわかりました。



常名の道標

また、昭和初期にたてられたものは全部で24個ありました。昭和初期のものが多くのは、御大典や大演習を記念してたてられたからです。この頃は道標のブームだったといえるのかもしれませんが。

□合併で土浦が大きくなった

大岩田で見つけた道標に、東村青年会と書いてありました。また、菅谷の道標には、上大津村青年会と書いてありました。そのことから、土浦はこれらの村と合併して、大きくなったのではないかとこのことに気がつきました。

土浦歴史地図から、土浦の合併の流れを調べてみます。昭和29年に上天津村と合併してから53年間ずっとどことも合併していかなかったのが意外でした。そして、今の町と昔の村とのつながりを表にまとめました。下高津小学校は中家村でしたが、私の住んでいる町は東村でした。

それから、今泉と栗野に、大正3年の今泉栗野青年会合併記念と書いてある道標がありました。



土浦歴史地図に、粟野という大字はのっていないが、今の粟野は今泉になっています。今泉に粟野坪という小字があるだけでした。粟野と今泉は1回合併して、また分かれたというところなのでしようか。今回は分からなかったのですが、また調べてみることにします。

また、今回は調べていませんが、同様につくば市や牛久市も合併で大きくなりました。穴塚の道標には、栄村吉瀬青年会とあり、下広岡のものには九重村青年会とありました。どちらも今はつくば市です。

**□道が消える**

道標がたっていた道の中には、今ではほとんど人の通らないような道もありました。たとえば、穴塚の馬場先や西原、永国の十三塚や、矢作などです。普通に歩いていても見つからなかったのでヤブの中を探検しました。

穴塚の馬場先は、不法投棄がひどく、倒木もあり、薄暗くて草もぼうぼうでした。しかし、なんとか道の形が残っていたので、先に進んでみることにしました。一緒に来た妹の顔が笹で切れてしまいそうだったので、父が抱きかかえて進みました。しばらく進んでいると、道の左側に立っていた木の前に道標を発見しました！道標の周りにはゴミのせい草はあまり生えていませんでした。昔はこの道を人が歩いていたので、今も歩いています。ゴミを捨てにくる人はかりです。

また、道標がたっていた所は道が二股になっているようでした。しかし、もう一本の道の奥は完全に森になっていました。

西原の道は、地主の人がちゃんと草を刈っているようでしたが、その先の四叉路になっている所に、車や冷蔵庫やゴミの不法投棄があり、そのゴミなどと一緒に道標が転がっているのを発見しま

した！道標は結構前から転がっていたようで、こけや土がこびりついていて、字はほとんど読めませんでした。

矢作は、なかなか見つからなかったのですが、畑仕事をしていたおじいさんに尋ねてみると連れて行ってくれました。何と、ヤブの中で蚊もたくさんいて、最初は道だとは思っていませんでした。道標がたっていたのです。木の枝の陰に隠れていました。

おじいさんの話によると、この道はおじいさんが若いころには人がたたくさん通っていたそうです。なのに、今はこんな道になってしまったのです。

**□人々はどこへ行っていったのか（土浦との交流）**

昔の人々は道標を見てどこへ行っていったのでしょうか。5年生のときの研究でやった信仰の道に関する道標は意外に少なかったです。ほとんどが周りの町村の名前か、小字名でした。道標に出ている町や小字名に印を付けた資料地図を作りました。この資料地図を作る作業をしているとき、地図ののっていないなかつた地名がいくつかありました。九重村や一ノ矢や山ノ荘などです。合併によって消えた村の名前です。しかしこういって村の名前は、よく調べてみると九重小学校や一ノ矢神社などのように、小学校や神社などの名前として残っていることがわかりました。今はない清水という村も、バス停の名前として残っています。また、土浦でも合併によって消えた上大津村や東村などの地名が、小学校の名前として残っています。  
(上大津西小学校、東小学校)

読めなかつた字もいくつかあったのですが、字が読めても場所が分からなかつた所があります。

**・さくのみち**

大岩田の内根にあつた道標のものです。

**・日の沢道**

乙戸の道標にあつたものです。  
さく道は、とうとう何も分かりませんでした。

日の沢の方は「樋の沢」という地名がつくば市にあります。そこには有名な月読神社があります。そこへ行く道のことでしょうか？それがどうして、乙戸の公民館にあるのか疑問です。

**□他の宿題**

大岩田の内根にあつた道標を調べに行ったときです。これは人の家の庭にあつたので、お断りして中に入らせてもらいました。すると、その家のおばさんと、となりの家のおじさんが来て、色々な話を聞かせてくれました。

その話によると、これは大岩田法泉寺の下で道路工事をしていたときに出てきたもので、そこに書いてあつた「坂本傳兵衛」という名を見て、工事の人が子孫である坂本さんの家に運んできてくれたのだそうです。坂本さんはもう亡くなって今は違う人が住んでいます。こういういわれは知らなかつたようで、庭の真ん中においてあつたものを、今の位置に移したそうです。

おじさんもこの道標について知りたいそうなので、何か分かつたら教えてほしい、とのことでした。「土浦の石仏にのっています」と言ったら驚いていました。つまり23年前にはすでにここにあつたということですね。

それで、大岩田町字広見の道標がたっている家に行つて尋ねてみました。法泉寺の下で2つの道標のある家なので何か分かるかと思ったのですが、でも、家のおじいさんは何も知りませんでした。しかし、昨年不明だった大岩田の森の中の阿波道の所にある立派な石碑は、日露戦争の慰霊碑だと教えてくれました。なので、「坂本傳兵衛」道標については宿題になってしまいました。

## 4 感想

私はこの研究でほかにも色々なことを知りまし  
た。漢字の旧字や、大字・小字のことや十干十二  
支のことなどです。

旧字は約60年前に今私たちが習っている字に変  
わりました。そのおかげで字を読めるようになった  
人が増えたと言われているそうです。

「土浦の石仏」の本にのっていた住所は番地では  
なく小字で書いてありました。歴史地図を見てみ  
ると穴塚などの大字の中に小字がとて細かく書  
かれていて驚きました。1つの大字の中に小字が  
約60個もあるのです。それに一つひとつの小字の  
名前に味があるのです。番地より小字の方がかつ  
こいと思います。

みんながなぜ十干十二支を使ったかということ  
昔は元号が変わってもそのことは全国の人々には  
伝わりづらかったのです。今のような通信手段が  
なかったし、元号がしょっちゅう変わっていたか  
らです。ですから、元号と一緒に書いておくこ  
う元号が不正確でも、どの年か分かるからです。で  
すから、今回も1文字しか読めなかった道標の年  
を知ることができました。

このようなことをみんなは不便だと言って変え  
てしまいました。しかし、私は昔のままの方が味  
があつていいと思います。

これからは小字のような昔ながらのものは残し  
ていきたいです。

このような昔ながらのものもなくなってしまう  
ましたが、肝心の道標もなくなってしまうたもの  
がいくつもありました。「土浦の石仏」の本から今  
回私が道標として抜き出したもののうち、道標が  
5つ、馬頭観音が3つ、地蔵が1つで合計9個の

道標がなくなってしまうたようです。博物館にも  
聞きまし、番地の表記が間違えているのかと  
推理して探し歩きましたが、見つかりませんでした。  
本ができてから23年たっています。不思議  
だったのは近所に何年も住んでいるお年寄りたち  
が道標があつたことさえも知らなかったというこ  
とです。

また、穴塚西原の道標のようにゴミと一緒に道  
ばたに放置されているものもありました。これ  
は道標がかわいそうです。

※優秀賞、優良賞、努力賞などの作品は、別表の  
とおりです。

〈参考文献〉  
土浦の石仏  
土浦市史  
土浦市史  
土浦市史（民俗編）  
土浦市史別冊 土浦歴史地図  
土浦方面の古地図（昭和7年のもの）  
文献ではありませんが、今回はデータベース  
フトを使用して道標の情報を整理しました。とて  
も便利でした。

賞	研究テーマ	氏名	学年
優秀賞	土浦のかぎの手を調べて	露木 健	真鍋小5年
〃	荒川沖ショッピングセンタ ーのひみつ	近藤 菜々美	荒川沖小3年
〃	土浦郷土かるたに登場する お寺を調べて	細矢 百花 細矢 太一	中村小3年 〃 5年
〃	土浦の郷土玩具「かすみ人形」 たにしのたぐさんいたころの土浦	飯島 龍	都和南小6年
優良賞	土浦の水がいと色川三郎兵衛	丸谷 光平	土浦小4年
〃	今泉の農業の今と昔	諏訪 菜々瀬	都和小5年
〃	土浦市のおいしいれんこん	遠藤 瑞帆 田中 葵	荒川沖小5年
〃	大好きわたしたちの町 き城公園	堀越 葉月	第二小3年
〃	霞ヶ浦の今と昔	柿原 結香	都和中1年
〃	都和・並木と呼ばれるまで	檜山 方由子 渡辺 みさき	都和中1年
努力賞	歴史のかあるまち、土浦 ～過去そして未来へ～	村山 絢香	下高津小6年
〃	土浦の花火	大山 小夜子	真鍋小4年
〃	縄文時代の土浦	鶴田 真優	真鍋小5年
〃	武者塚古墳の持ちようについて	矢口 大晃	山ノ荘小5年
〃	予科練	外塚 雄也 松原 飛郎	都和中2年
学校賞	都和中学校		